

図書館の「常識」を考え変えた…



7月3日にかわら美術館モノコトギャラリーで開催された『図書館の新たなカタチ』フォーラム。約40人が参加し、今後の図書館のスタガを考えるきっかけとなりました。リモート講演を行った札幌市中央図書館の浅野隆夫さんのコトバにミライへの可能性を感じる機会となりました。

これからの図書館のカタチカラ

第9回 第1回 図書館フォーラムの報告

第1部

ゲスト基調講演 「常識のカバーをはずそう ～くらしを支える図書館のスタガ～」

常識をはずす 札幌市図書・情報館では人に寄り添いながら、利用者の「悩み」にきめ細やかな対応を行うため、本を並べるルール（日本十進分類法）を外して、テーマに沿った排架（本棚づくり）を行っている。今までの常識（ルール）にとらわれず、司書が個性を表現して排架でき、棚を通じた利用者との対話が深まっている。



ターゲットを絞る 札幌市図書・情報館は利用者像を明確にして、おもに「はたらく人たち」にターゲットを絞ることで、良質なサービスが提供できると考えた。また本はとても豊かなコンテンツなので、ビジネス書でも発想のきっかけや人生訓として読むという人もいます。結果的に子どもや学生も利用しているといったスタガもある。

価値とは？ 常に思っているのが、ダウンロードできない価値とは何かということ。大体の答えはスマホでたどり着ける時代だが、図書館は本があって、交流があってこそ価値が出てくる。いろいろな人に「人生検索だけだ間に合っていますか？」と問いかけたいですね。

この連載に関する感想などは、こちらのアンケートフォームから



第2部 参加者とゲストとの意見交換

Q 図書館の役割と可能性について、どのように考えていますか？

A 図書館は、そのまちで行われているいろいろな施策の一部であり、連携をしていくべきだと考えています。図書館は自らの役割やしごともありますが、まちづくりのスタガと図書館が無縁ではいけないと考えます。

Q 新しい図書館のあり方を地域で浸透させていく、地域で創りあげていくために、必要なことは何ですか？

A 図書館サービスは長い年月をかけてできてきたイメージなので、新しいことを浸透させる努力は、絶え間なく行っていないといけないですね。

参加者の声

一部アンケート概要

多世代の人が集まりやすい、さまざまな機能を備えた図書館が少しでも実現できるといいですね。

さまざまなアイデアに刺激を受け、今回参加させていただいて、頭のなかガスッカリしました。

「いつでもどこでも図書館」を充実させることや学校図書室を充実し、子どもたちに本の面白さを知らせるための工夫も必要と思いました。



◆ 図書館での催しに関しては17ページに記載がある「図書館情報」や図書館公式ホームページ、フェイスブックおよびツイッターを確認してください。

◆ 今後も図書館の取り組みなどについては『広報たかはま』においてお知らせします。



▲ホームページ ▲フェイスブック ▲ツイッター

問合せ先 [いきいき文化スポーツグループ](#) ☎ 52-1111(内線331)